

# TEAM



特集

泌尿器科

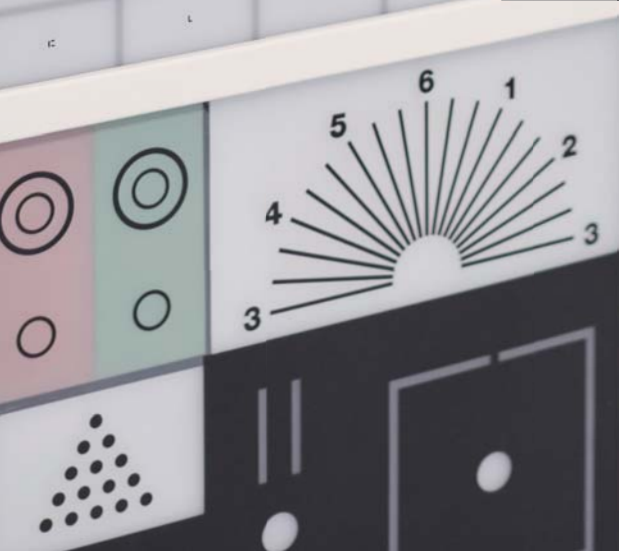
一日でも早く安心の日常を

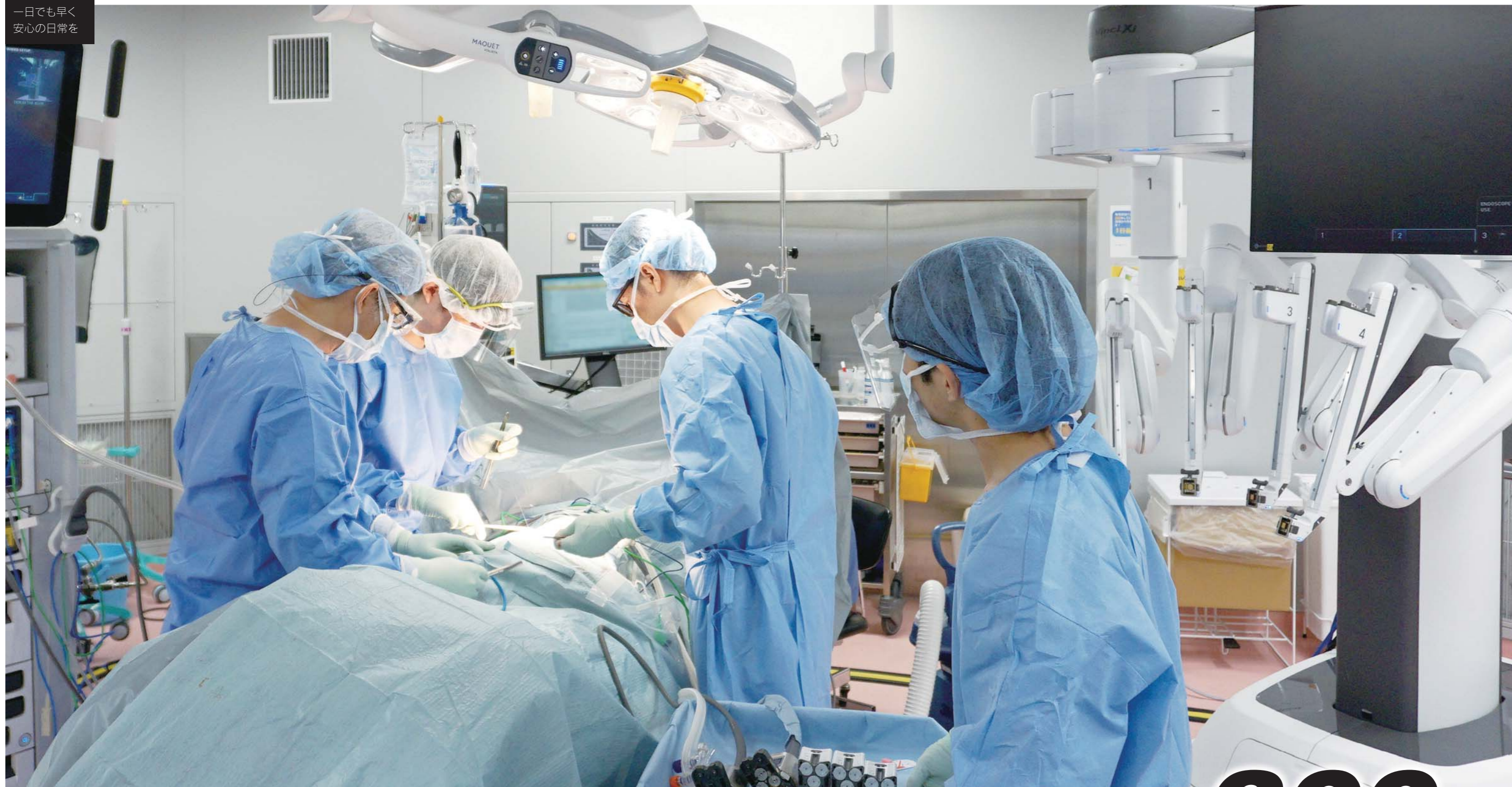
眼科

目の健康から生活を見守る

皮膚科

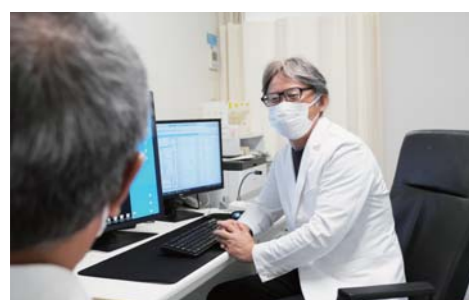
難治性に総合力で応える





迅速に、正確に、丁寧に。信頼される泌尿器科を目指して。

ロボット手術のべ **300** 例以上



**多岐にわたるフィールドに挑み、  
最善の医療を安全に提供**

泌尿器科に係るフィールドは非常に広く、臓器・疾患ともに多岐にわたります。当科では副腎や尿路性器腫瘍をはじめ、結石、感染症、前立腺肥大症や過活動膀胱、間質性膀胱炎などの排尿障害疾患に対し、迅速な検査と、より正確な診断、丁寧な治療を心がけています。近隣の医療機関の皆様と連携をとりながら、地域から信頼される泌尿器科として患者さんの健康と生命を守るために、最善の医療を安全に提供できるよう全力を尽くします。



**手術支援ロボットを用いた手術は  
非常に重要な位置付け**

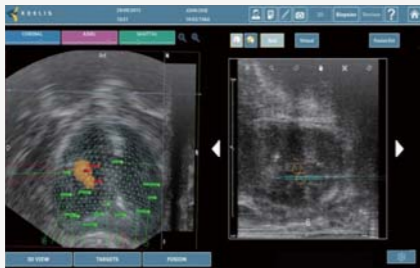
手術支援ロボットであるダヴィンチは、鮮明かつ拡大機能を持つ三次元視野で、極めて狭い空間でも自由な操作が可能となり、より正確に少ない出血量および小さな皮膚切開で手術が可能な画期的な手技です。当科では2019年から前立腺全摘術をロボット支援下に行っています。2020年以降は腎臓に対する腎部分切除術、腎摘除術、腎盂癌尿管癌に対する腎尿管全摘徐術などにも積極的に取り組んでおり、現在までに300例以上実施しています。

### 迅速な検査と確実な診断を心がけ、 スムーズに治療へ移行。



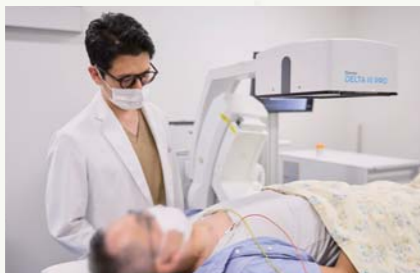
血尿は、患者さんに計り知れない不安を与えます。超音波検査や膀胱鏡検査は可能な限り当日に行うようにしています。膀胱鏡はNBI(狭帯域光観察)システムを搭載したモデルを採用し、表層の粘膜肥厚やがんの増殖に伴う血管新生の様子を観察しやすく、通常の膀胱鏡観察では異常所見なしと判断されるような病変の検出が可能です。より正確に、より早く血尿の原因を見つけ、速やかに更なる検査や治療計画を立てることを心がけ、当科では年平均700件前後の膀胱鏡検査を行っています。

### 近年増え続ける前立腺がんの検出率が向上。 ターゲット生検の検出率は約80%



前もってMRI画像を撮影し、がんが疑われる部位を確認しておきます。そして前立腺に生検針を刺す際の超音波画像「トリニティ」のソフトウェアに、MRIを重ね合わせた画像イメージを合成することで、針を刺すべき場所が見つかります。リアルタイムに描出される病変部位を観察しながら、確実にターゲットを狙って生検できるため、がん病巣の検出率が向上します。検査の精度が上がることで初期病変の見逃しが減ると同時に、不必要な再生検の回避にもつながります。

### 患者さんを身体的苦痛から 一日でも早く開放すること。



尿路結石は、患者さんの多くに耐え難い苦痛を与えます。当科は体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)のバイオニアである独・ドルニエ社製の最新モデル「Delta III」を導入しています。この装置は、結石に焦点を合わせる操作も改善され、衝撃波のパワーも増加したことで、より早く効果的な治療が期待できます。症例毎に適応を慎重に検討し、内視鏡によるレーザー手術を含め最善の結石治療を提案します。

### 緊急を要する症例に対応し、 急性期病院としての機能を果たす。



地域の医療機関をはじめ、多くの施設より患者さんを受け入れており、緊急を要する尿路感染症への対応、尿管ステント留置、腎瘻造設術などにも迅速に対応しています。

### 丁寧な説明から始まる 「がん個別化医療」の実現を目指す。

がんの三大療法は「手術療法」「薬物療法」「放射線療法」です。エビデンスに基づいた治療の提案のみならず、個々の価値観や人生観などに即した尊厳ある治療の選択もできるよう、丁寧な説明を心がけ患者さんに寄り添うがん治療を実践します。

### 泌尿器科 専門医のご紹介

## 幅広い分野だからこそ、患者さんと地域からの信頼を礎に。

泌尿器科部長 鍋島 義之  
福岡大学出身



- 福岡大学 臨床教授 ■日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医・指導医 ■西日本泌尿器科学会 評議員
- 日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- Hiroshima University Hospital Certificate of Robotic Observationship da Vinci Surgical System Console Surgeon
- 臨床研修指導医



泌尿器科 医員 福原 悠一朗  
福岡大学出身  
■日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医



泌尿器科 医員 財前 俊宏  
鹿児島大学出身

泌尿器科 非常勤 大森 章男 長崎大学出身 ■日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医

## 特集

### 眼科

目の健康から  
生活を見守る

# 見逃さず早期発見。 超高齢化社会を支える 眼科医療。

人生100年時代と言われる超高齢化社会を迎えつつある現代、特に目の健康は生活の質を大きく左右する重要な要素です。眼科は、幅広い年齢層の様々な視力障害の状態を早期に発見し改善治療していく診療科であり、当院の眼科手術件数は年間329例(2024年)です。主な眼科治療について説明いたします。

### 手術件数

術式	件数
超音波水晶体乳化吸引術 + 眼内レンズ挿入術	186
水晶体再建術	4
硝子体内注射	79
硝子体茎頭顕微鏡下離断術	47
硝子体切除術	1
霰粒腫摘出術	2
緑内障手術	2
翼状片手術	2
眼瞼手術	1
眼球摘出術	1
その他	4
合計	329

### レーザー治療件数

術式	件数
糖尿病網膜症	11
網膜静脈閉塞症	7
網膜裂孔	9
緑内障	1
その他	20
合計	48

## 適切な時期に最適な手術を 白内障

加齢により進行する病気ですが、アトピー、糖尿病等加齢以外にも要因があり、適切な時期に手術を受けることが大切です。当院では日帰りもしくは入院で手術を行っており、病診連携の先生方からご紹介いただく患者さんには難治症例や認知症の方も多く、不安が強い方やご希望に応じて前処置鎮静や全身麻酔下でも対応できます。小切開PEA+IOL、必要に応じてECCE,ICCE(眼外水晶体摘出術)、眼内レンズ強膜内固定、縫着を行っております。

## 失明のリスクを減らす 緑内障

緑内障は我が国における失明原因の常に上位を占めており、社会的に重要な眼疾患です。緑内障疫学調査では、40歳以上の日本人における緑内障の有病率は推定5.0%でまさに20人に1人、60歳以上では10人に1人が緑内障というデータがあります。緑内障は進行性、非可逆性であるにも関わらず中期でも自覚症状が無いことが多く、検診等での早期発見早期治療が非常に重要です。必要に応じて手術を行い、視力視野を確保する必要があります。当院では眼底光干渉断層撮影画像解析で、網膜神経節細胞複合体厚と呼ばれる緑内障で特異的に薄くなる部位の検出や、病期に合わせた視野検査を行っております。ハンフリー、オクトパス自動視野計、ゴールドマン視野計を使用します。緑内障治療としては点眼、レーザー治療(SLT:選択的レーザー線維柱帯形成術)、手術治療があります。近年はMIGS(低侵襲緑内障手術)の症例が増えてきていますが、進行例や血管新生緑内障には従来の濾過手術やチューブシャント手術も行っております。

### 外来で使用する検査機器

- 視力検査(5m)
- 眼圧計(トノペン、シェッツ含む)
- スペキュラ(角膜内皮計測)
- OCT(光干渉断層計)
- 前眼部OCT
- 広角眼底カメラ
- レーザー(YAGレーザー、アルゴンレーザー、未熟児用レーザー)
- 手術顕微鏡(外来処置用)
- 静的、動的視野計
- 超音波検査(Aモード、Bモード)
- ヘス
- 中心フリッカー
- 網膜電位



# あらゆる世代の視野を守る、先進の治療と薬剤。

## 網膜や黄斑部などを治療 硝子体手術

当院では25Gシステムで小切開硝子体手術を行っており、SF6ガスやシリコンオイルも使用し、網膜剥離等必要に応じてバックリング手術にも対応できます。術後に腹臥位が必要な方には腹臥位用マットを使用することも可能です。

### 対象疾患

網膜剥離、黄斑前膜、黄斑円孔、硝子体出血、糖尿病網膜症、眼内炎、眼外傷等

## 薬剤の進化で失明を予防 抗VEGF治療(血管内皮増殖因子抑制治療)

抗VEGF抗体硝子体内注射は、近年適応が増え失明予防に多大なる力を発揮しており、今後も薬剤の開発が進むことが期待できます。

### 対象疾患

加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫、近視性脈絡膜新生血管、さらに未熟児網膜症にも適応が広がりました。

## 大学病院と連携し治療 未熟児網膜症

出生体重が1,800g以下、在胎週数34週以下とハイリスクの場合は、眼科医による眼底検査を受ける必要があります。当院では新生児科NICUで眼底検査を行い、国際分類に従い未熟児網膜症を診断し、定期検査を行います。治療法としてはレーザー治療、抗VEGF治療、手術治療がありますが、大学病院と連携し安心・安全な治療を追求しています。



## 視力の発達を見守る 小児眼科

我が国では生後6か月、3歳児、就学前、就学後学校健診が行われており、当院では小児眼科として、2次眼科健診を実施しています。子どもの年齢や発達段階に合わせて視力、屈折、眼位、眼底検査等を行い、視力の発達を阻害する斜視や弱視の治療、屈折異常(近視、遠視、乱視)の矯正、先天性疾患の診断治療を行います。検査を担当するのは、ORT(視機能訓練士)2名です。



## 眼科 専門医のご紹介

視野を守ることは、QOLを守ること。  
だからスピード感を持って治療したい。



### 眼科部長 横尾 葉子

香川医科大学出身

- 日本眼科学会眼科専門医
- 日本医師会認定産業医
- 臨床研修指導医

# 選択肢が広がり治療困難な病気にも希望を。

## 新しい薬剤が保険適用となり治療法が拡大

近年皮膚科領域では、今まで治りにくかった乾癬、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹といった疾患に対して、複数の生物学的製剤、JAK阻害内服薬等が保険適用となり、治療の幅が格段に広がっています。乾癬に対しては、生物学的製剤の副作用等に考慮して生物学的製剤の使用は日本皮膚科学会の生物学的製剤使用認定施設に限られており、当科も2015年に申請して認定されています。



### 注射製剤 生物学的製剤

現在当科で使用している生物学的製剤は、下記の通りです。赤字の薬剤についてはインスリンのように自己注射が可能であり、外来で指導をした後は患者さんのご自宅に持ち帰って自己注射していただけるようになりました。

疾患	生物学的製剤	一般名(製品名)
乾癬	抗IL-23p19抗体	ゲセルクマブ(トレムフィア®)
		リサンクスマブ(スキリージ®)
		チルドラキスマブ(イルミア®)
	抗IL-17抗体	セクキスマブ(コセンテックス®) イクセキスマブ(トルツ®) ビメキスマブ(ピンゼレックス®)
アトピー性皮膚炎	抗IL-4/13受容体抗体	デュビルマブ(デュピクセント®)
	抗IL-13抗体	レプリクスマブ(イブグリース®)
慢性蕁麻疹	抗IgE抗体	オマリズマブ(ゾレア®)
	抗IL-4/13受容体抗体	デュビルマブ(デュピクセント®)
結節性痒疹	抗IL-31抗体	ネモリズマブ(ミチーガ®)
	抗IL-4/13受容体抗体	デュビルマブ(デュピクセント®)
化膿性汗腺炎	抗TNF-α抗体	アダリムマブ(ヒュミラ®)
	抗IL-17抗体	ビメキスマブ(ピンゼレックス®)
壊疽性膿皮症	抗TNF-α抗体	アダリムマブ(ヒュミラ®)

### 内服薬 JAK阻害薬/TYK2阻害薬

注射が苦手な方や内服が好みの方等については、JAK阻害剤やTYK2阻害剤といった内服薬で生物学的製剤に匹敵するような効果の高い薬剤も保険適用内で使えるようになっています。

疾患	薬効分類名	一般名(製品名)
アトピー性皮膚炎	JAK阻害剤	バリシチニブ(オルミエント®)
		ウバダシチニブ(リンヴォック®)
円形脱毛症	JAK阻害剤	バリシチニブ(オルミエント®)
尋常性乾癬	TYK2阻害剤	デュークラバシチニブ(ソーテイクツ®)
乾癬性関節炎	JAK阻害剤	ウバダシチニブ(リンヴォック®)

### 最先端の薬剤で質の高い治療を

2015年以来、当科でも掲載の新規薬剤を積極的に使用してきました。また、筑紫医師会皮膚科医会学術講演会等にも参加し、近隣の開業医の先生方と面識のある関係を築くように心がけています。今後、近隣の開業医の先生方からの難治性皮膚疾患の患者さんご紹介の増加、ひいては生物学的製剤やJAK阻害剤等も含めた質の高い治療につなげていきたいと考えています。また2023年9月以降、デュビルマブ®製剤200mgの発売に伴い、生後6ヶ月以上のアトピー性皮膚炎に対して、生物学的製剤による治療が可能になりました。現在、喘息を合併しているアトピー性皮膚炎に対してデュビルマブ®を投与して、小児科医師と並行して診察・治療を行っている患者さんがおられ、小児科との連携が必要不可欠になっています。他にも、耳鼻いんこう科で好酸球性副鼻腔炎に対してデュビルマブ®を投与した結果、副鼻腔炎のみならず長年悩んでいた掌蹠の水疱性病変も改善を認めた患者さんがおられ、生物学的製剤の使用に際して他科との連携の重要性を痛感しています。地域連携における総合病院の皮膚科の役割を自覚し、一人一人の患者さんを丁寧診て、近隣の開業医の先生や他科との連携を大切にしながら、日々を積み重ねていきたいと考えています。

### VTRAC(ターゲット型エキシマライト)

VTRACは、308nmエキシマライトを用いたターゲット型紫外線治療機器です。病変部位のみに照射できるため、健常皮膚への影響を最小限に抑えつつ、高い治療効果が期待できます。

対象疾患 乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症、類乾癬、菌状肉疣症、悪性リンパ腫、慢性苔癬状皰癬疹等



### Qスイッチアレキサンドライトレーザー

波長755nmのアレキサンドライトレーザーを、Qスイッチ(超短パルス)で照射する医療用レーザー装置です。当院では日帰り手術として全身麻酔下で比較的広範囲に照射可能です。

対象疾患 太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青等



### パッチテスト

遅延型アレルギー反応を評価する検査としてパッチテスト(PT)を行っています。アレルギー性接触皮膚炎の場合は患者さんが持参した製品とパッチテストパネルSを用いたPT、金属アレルギーの場合は金属PT、湿疹型の薬疹の場合は薬剤PTを行います。

対象疾患 アレルギー性接触皮膚炎、金属アレルギー、薬疹等



## 皮膚科 専門医のご紹介 質の高い治療と、 地域と共にある皮膚科を目指して。

皮膚科部長 **黒木 リエ**  
九州大学出身  
■日本皮膚科学会皮膚科専門医  
■臨床研修指導医  
■九州大学医学部皮膚科非常勤講師

皮膚科 医員 **與語 晶子**  
久留米大学出身





# TOPIX

## ご紹介の運用について

救急から外来まで。医療連携室を中心に貴院からのご紹介に対応いたします。



## 2025年運用開始!がん地域連携パスのご案内

2025年4月、当院は地域がん診療連携拠点病院として承認を受けました。  
これを機に、地域の先生方と協力し、「がん地域連携パス」の運用を開始いたします。

### 外来への紹介 以下の手順で当院までご連絡ください。

#### 当日受診

- 1 診療情報提供書をFAX送信  
予約制外来・受付時間に間に合わない場合はお電話ください
- 2 医療連携室より折り返しご連絡

#### 後日受診

- 1 診療情報提供書をFAX送信  
外来日をご確認ください  
予約制外来へのご紹介はお電話ください
- 2 医療連携室より「受付確認書」を送付します。  
外来日時のご確認をお願いします

### 小児科への紹介

#### 当日受診

- 1 医療連携室へお電話ください  
担当医へお繋ぎします
- 2 診療情報提供書をFAX送信  
小児内分泌・小児循環器・小児神経は、  
現在診療を行っていません

#### 後日受診

- 1 診療情報提供書をFAX送信
- 2 医療連携室より「受付確認書」を送付  
患者さんより小児科外来へ  
予約電話をお願いします

### 救急紹介・入院紹介(24時間受付)

- 1 医療連携室へお電話ください  
担当医師へお繋ぎします
- 2 診療情報提供書をFAX送信

### 医療連携室(医療機関専用)

FAX: **0120-218-489** (直通)

TEL: **0120-172-489** (直通)

平日 8:30~17:00 土曜日 8:30~12:20

※上記時間以外は代表電話にご連絡ください。  
代表電話:092-573-6622

### 使用する「がん地域連携パス」

- 福岡県共通パス「私のカルテ」を活用

### ご利用の流れ

- ① 「がん地域連携パス運用開始(依頼)届(兼受入確認票)」を当院よりFAX
- ② ①にて受入可否を貴院→当院へ FAX
- ③ 受入決定後、当院で患者さんからがん地域連携パス同意書を取得
- ④ 当院から「私のカルテ」を患者さんに交付
- ⑤ 患者さんが貴院へ「私のカルテ」を持参
- ⑥ 貴院にて診療・指導内容を「私のカルテ」に記載
- ⑦ 「私のカルテ」の計画に沿って当院へ受診

### 診療報酬算定について

#### がん治療連携指導料(B005-6-2):300点

診療情報提供書を「私のカルテ」に貼付してください(当院へのFAX不要)  
貴院での算定は予定表記載月に算定  
容態悪化による随時受診時も月1回限度で算定可

### お問い合わせ

医療法人 徳洲会  
福岡徳洲会病院 **0120-172-489** (医療連携室直通)  
(Eメール) renkei@csf.ne.jp



医療法人 徳洲会

# 福岡徳洲会病院

〒816-0864 福岡県春日市須玖北4丁目5番地  
TEL.092-573-6622(代表) FAX.092-573-1733

<https://www.f-toku.jp/>

総合外来予定表は  
ホームページをご参照ください。  
2026-01-TEAM011

